

水分の保持

水分の調節

刺激に対する吸収剤

コンドロイチン

『コンドロイチン体のどこに?』

軟骨だけでなく、目の角膜、耳(内耳)、椎間板、肌、細胞と細胞をつなぐ結合組織など、全身に広く存在している物質です。そして、加齢とともに減っていきます。



クッションの
ような動き

『コンドロイチンとは?』

コンドロイチンはネバネバした粘性物質であるムコ多糖類に分類されます。コンドロイチンのようなムコ多糖類は結合組織や軟骨に存在して、軟骨などが定位置に留まることができるよう、潤滑剤のような働きをしています。コンドロイチンが十分にあれば、隣り合わせの骨などが近寄り過ぎたりすることなく、クッション的な役割を担っています。

『コンドロイチンが減少すると……』

水分の保持が困難になり、そのためにクッション(弾力)効果も失われ、軟骨の摩耗が始まります。それが膝であれば膝の痛み、腰であれば腰痛という形で出てくるわけです。

眼の中のコンドロイチンが減れば、ドライアイになることも。



『コンドロイチンの効果!』

軟骨がすり減って骨同士が接触を起こすと、痛みが出てきます。コンドロイチンは軟骨間の空間を維持し、痛みの症状を改善させることができます。

『コンドロイチンを多く含む食品』

納豆・山芋・里芋・なめこ・オクラ・モロヘイヤ・昆布・わかめ・めかぶなどが代表的です。

これらの食品は『ネバネバしている』というところが同じです。



治すなら! 医薬品のコンドロイチン

1,560mg

日本で
唯一*

コンドロイチン配合
【7つの効能効果】

関節痛

腰痛

五十肩

神経痛

音響外傷性難聴

神経性難聴

疲労回復

